

## 献辞

藤田渉教授は、株式会社三菱総合研究所勤務を経て、1994年に長崎大学経済学部に着任されました。以来、25年以上にわたり長崎大学経済学部・経済学研究科での教育研究活動に携わり、2021年3月に定年を迎えられました。

本学着任以来、先生は学部・大学院において産業構造論、経済数学系科目、公共政策特講及び演習等、教養教育において初年次セミナー・教養ゼミナール、全学モジュール科目などの多くの科目を担当されました。この他にも工学部における土木経済学、非常勤講師として長崎国際大学での統計学・数学の教育にも携わり、学内外の大学教育全般に広く貢献されました。

研究面では、先生は一貫して産業構造分析に取り組んでこられました。その研究は国内および国際間の産業構造変化を対象とするだけでなく、就労構造にも目を向けた立体的なもので、諸学会や研究会等で報告されるとともに各種学会誌等に継続的に発表されています。また、競争的資金の獲得にも努めており、科学研究費補助金を研究代表者として通算4件、研究分担者として9件獲得しています。

運営面においては、学生委員長、就職委員長、地域・経済政策講座主任、経済・経営情報コース主任、経済分析と政策コースおよび経済と政策コース主任等を務め、組織運営面からも経済学部の発展に大きく貢献されました。特に、バブル崩壊後の厳しい時期に就職委員長を務められましたが、効果的な就活支援体制を作りあげ、就職氷河期であったにもかかわらず良好な実績を記録されました。この時の実績がその後の経済学部の社会的評価を維持することに大きく貢献したことは言うまでもありません。情報化推進委員としては、いち早く学部ホームページの作成とサーバー管理を行い、部局の情報発信に尽力されました。全学学生委員として学生の交通事故に関する懲戒規定の制定など、学生の健全かつ

快適な修学環境の整備に力を発揮されました。

学生に対する先生の思いは学外でも発揮され、長崎県商業教育研究会、商業経済専門委員会主催のビジネスアイデアコンテストにおいては、当初から審査委員長を務めるなど、経済学部と商業高校との連携確立にも取り組まれました。

藤田渉先生のバイタリティとその博覧強記ぶりは経済学部にとって何ものにも代えがたいものでした。ここに、教職員を代表して改めて感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念して、献辞とさせていただきます。

2022年3月

長崎大学経済学会長

長崎大学経済学部長・経済学研究科長

深 浦 厚 之



藤田 渉 教授